



月刊 部品新聞

2010年12月 第59号

編集・発行 Unit

iPadとスポーツ

最近街や電車の中で携帯電話を指でなぞっている人をだいたい見かけるようになってきました。外出が多く、なかなかメールチェックができない方や、遠征が多い競技者もスマートフォンを持つていけば、メールチェックやブログ更新、つぶやきをするためにPCをいらない立ち上げる必要もないため、気軽に利用しているようです。

先日このスマートフォンとはちょっと異なりますが、iPadをスポーツの分析に利用している方の話を聞きました。

基本性能

普段持ち歩くにはちょっと大きい感じもあるiPadですが、この中には以前では考えられないほどの機能が組み込まれています。携帯電話としては利用できませんが、インターネットを介して外部から情報を収集することはもちろん、本体のセンサーを利用して、本体自体の情報を収集することも可能です。

それらのセンサーはGPS、3軸加速度計、電子コンパスなどで、それが一つの器械に組み込まれているというのは、ちょっと前までは考えられないこと

でした。もちろんそれらを単体で気軽に利用できる代物でもありませんでした。

3軸加速時計などは今や、家庭用ゲーム機のコントローラにも組み込まれてきています。これらをうまく活用することによって、スポーツを解析するには十分なのではないかと思えます。

活用方法の展開

現在のスポーツにおけるiPadの活用方法を調べてみると、大きな画面を利用して、動画を表示してレッスンに利用したり、動画を切り込んで戦術分析や動作解析がほとんどではないかと思えます。

しかしその方が行っているのは、iPad自体で情報収集を行うというもので、GPSを利用して移動距離や、加速度系によるダッシュやストップ、方向転換などを逐次集積し、分析するというところを行われていました。

あまり表にはできていないと思いますが、研究者の間では試行錯誤されているのではないかと思います。センサーに左右されず自然な動きを解析することができるようになる

ため、今まで直接測定することが難しかった分野では今後の発表が相次ぐのではないかと思います。

もちろんこれらのことを行うにはアプリが必要になりますが、ちょっとしたコンピュータプログラムを行ったことがある方であれば、作成するのは難しいものではないそうです。

分析は大事だが

電子技術の発達によりスポーツを分析することが非常に簡単になってきています。もちろんこれらのことを分析することは基礎研究として非常に大切で、しかし競技者にとつて分析をしてもらうことよりも、いかに競技力を向上させることができるかが大切であり、そのフィードバック

クがないのであれば分析自体にあまりメリットを感じないのではないのでしょうか。

たとえば世界トップと比較分析をしてこのような動作の違いがある。ではその動きができるようになるれば世界トップになれるのであるか。

答えは否です。少なくとも肩を並べることができない。しかし越えることはできない。その世界トップを負かす技術を身につけなければ越えることはできないはずで

それはどのような技術でそれを行うためにはどのような体力要素が必要になるのか。またそのためにはどのようなトレーニングをしなければならぬのか。その部分は我々専門職の分野になって

くるのではないかと思っています。

もちろん個人差だけではなく、道具を使うものであればそのマシンやタ・テ・コ・ス・マがすべて絡んでくることとなります。それぞれの専門職がチームを作り競技者を支えてゆかなければ、世界を目指すことは難しいのかもしれない。

後日談

その方がデータを回収したところ、データが途中で途切れていたそうです。アプリに問題はなかったそうですが、本体の節電機能をオフにし忘れたため、途中で電源が落ちてしまっていたそうです。思わぬ落とし穴に、再度測定をやり直さなければならなかったそうです。

iPad スポーツ部門人気アプリ

無料	有料
1位 ゴルフダイジェスト・アプリ	『動画付き』内藤 雄士の必ず上手くなるゴルフイング
2位 At Bat 2010 for iPad	谷 将貴の完全基礎がためゴルフイング
3位 iPutt for iPad	300 Bowl Universal
4位 Lap Timer HD	サッカー名鑑
5位 スノーボードもっと遊べるテクニック100	初心者ゴルフアール必見!理屈が分かれば上手くなる!
6位 NBA Game Time Lite	NBA Game Time for iPad
7位 TWB-Tactics White Bord	B-Ball Score Book
8位 FishingMapPad	Golfshot: Golf GPS
9位 熱中競馬	F1 2010 Timing App
10位 ワールドカップ・カレンダー-2010	バスケットボールコーチのクリップボード

iPad Times より

Unit 代表 澤野 博 (さわの ひろし)

日本体育大学卒。社会人経験を経て欧州へ留学。乳酸を中心としてトレーニングを幅広く学ぶ。帰国後、部品となって競技者を支えるという意味で「Unit」を設立。競技種目、競技レベルを問わずトレーニング指導を中心に活動。医療系国家資格の臨床検査技師の資格を持つ異色のフィジカルコーチ。NSCA CSCS、JADA DCOなども保有。
ご意見、ご要望、仕事依頼、お問い合わせは下記まで。
0422-34-5055 (Fax 兼用)、090-1999-2845 または sawano@team-unit.com